

全校朝会 「梅の花と菅原道真 -今が勉強する時-」

令和8年2月9日（月）

奥沢小学校長 前田 恵里



さて、梅といえば、この人のことを思い出します。誰だか分かりますか。菅原道真です。菅原道真是平安時代の貴族であり、学者から政治家になった方です。大変に学問に優れていたことから、「学問の神様」と呼ばれています。学問とは、勉強すること、勉強の方法、勉強で得ることができる知識などのことです。

全国各地には、「○○天神」「○○天満宮」として、菅原道真をまつった神社がありますが、そこには梅の木が植えられているそうです。これは、菅原道真が自分の家の庭にあった梅の木をとても大切にしていたことに由来していると言われています。

最後にその話をします。当時の都であった京都に住んでいた菅原道真は、はるか西にある太宰府に行かなければならなかった時、庭の梅の木に向かって次のような歌を詠みました。

「東風吹かば 匂いおこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな」

(春の東風が吹くようになったら、花を咲かせて匂いを届けてくれ。)

梅の花よ、主の私がいなくなつても 春を忘れないでおくれ。)

このように主から大切にされていた梅の木は、菅原道真を慕って京都から福岡まで、一晩で飛んでいったという「飛梅」伝説が語り継がれています。詳しく調べてみるのもいいでしょう。

皆さん、豊かな未来を創るには、学問は必要です。梅の花が咲くこの時期、「学問の神様」を思い出し、しっかりと自分の学年のまとめの学習に集中しましょう。梅の木が春を忘れないで花を咲かせるように、皆さんも一年間で学んだことを忘れないで、春に花を咲かせ進級・進学できるようにしましょう。